

平成27年度第3回厚岸町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成28年2月18日（金）午前10時00分～午前11時00分

2 場 所 厚岸町役場庁舎2階庁議室

3 出席者

（構成員）

町 長 若狭 靖
教 育 長 富澤 泰
教育委員長 田辺 正保
教育委員 濱 秀利
教育委員 平良木宣行
教育委員 森脇 直美

（事務局）

総務課

課 長 會田 周二
課長補佐 渡部 貴志
主 事 岡村 健太郎

（教育委員会事務局）

管理課長 高橋 敏晴
管理課長補佐 田崎 剛
指導室長 滝川 敦善
生涯学習課長 桂川 実
体育振興課体育振興係長 小林 彰

4 傍聴者 1人

5 内 容

○司会（総務課長）

ただいまから、平成27年度第3回厚岸町総合教育会議を開催いたします。
始めに、町長から、ご挨拶をいただきます。

○町長

皆さん、おはようございます。

本日は、第3回目となります厚岸町総合教育会議に、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

また、日頃から、厚岸町の教育行政にあたりまして、格段のご支援、ご協力を賜っ

ておりますことを心から厚くお礼を申し上げる次第でございます。

ご案内のとおり厚岸町におきましては、昨年5月に総合教育会議を設置いたしまして、8月の第2回会議において、教育大綱を管内他市町村に先駆けて策定をいたしたところでございます。

この教育大綱については、委員の皆さんからいただいたご意見に基づき、速やかに町のホームページに掲載し、広く町民に周知をいたしているところでございます。

さて、現在、町では、新年度に向けた予算編成作業をはじめ、町政執行方針や厚岸町未来創生総合戦略の策定作業を進めているところでございます。

また、3月7日からは、第1回定例会が開会される予定となっているところであります。

そこで、本日の会議におきましては、平成28年度の教育行政執行方針における重点項目、新たな取組や事業などを教育委員会事務局から説明をいただいた上、皆さんと協議をさせていただきたいと考えております。

委員の皆さんには、忌憚のないご意見を賜りますことをよろしくお願いして、挨拶とさせていただきます。誠にご苦労様でございます。

○司会（総務課長）

ありがとうございました。

本日の会議の進行につきましては、本会議の議長であります、町長に進めていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（町長）

それでは、これから私が暫時、議事を進行させていただきますので、皆さまのお手元に配付されております、会議次第（1）「平成28年度教育行政執行方針について」を提案させていただきたいと思っております。

説明を事務局からお願いしたいと思っております。

○事務局（総務課長）

ただ今、議長が申しあげましたとおり、今回の説明・協議事項は、平成28年度の教育行政執行方針のうち、次に申し上げます重点項目及び新たな取組についてでございます。

～(1)説明・協議事項（1）平成28年度教育行政執行方針（案）（重点項目）について～ 配付資料により区分・項目及び内容について説明

ただ今、申しあげました、各事業取組の詳しい内容につきましては、教育委員会の各課長等から説明させていただきたいと思っております。

○議長（町長）

それでは、管理課長をお願いします。

○教育委員会事務局（管理課長）

私の方から本日、説明・協議事項としてあげさせていただいております、重点項目新たな取組について、全体的にご説明をしたいと思います。

その後に質問等があれば、各担当からご説明をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

教育行政執行方針から抜粋して説明いたします。

～別紙、教育行政執行方針（案）について説明～

○議長（町長）

ただ今、教育行政執行方針（案）について、概要を申し上げたところでございます。

なお、町長が行うところの町政執行方針につきましても、教育部門につきましても、施設整備について申し上げます。9頁に書かれておりますが、同じような内容を執行方針に取り上げて参りますので、ご理解をいただきたいと思います。

それでは、ご意見を求めます。ただ今、執行方針（案）を申し上げたところでございますが、お気づきの点、又はお訊ねの点がありましたらお伺いします。

【教育行政執行方針（案）9頁（抜粋）】

重点の7は、「学校施設・設備の充実」であります。

1点目は、学校施設の維持管理についてであります。児童生徒に学習しやすい教育環境を提供するため、継続的に施設点検を行い施設状況の把握に努め、計画的な修繕を行い適切な維持管理に努めてまいります。本年度は、太田中学校の玄関前の舗装整備を行ってまいります。

2点目は、教員住宅についてであります。教職員に対し住宅に関するアンケート調査を実施し入居の要望の把握を行い、効果的な維持補修を実施し、住環境の整備を進めてまいります。本年度は、住の江地区住宅1戸の外観及び屋内を補修し整備を進めてまいります。

また、老朽化により入居不可能となった施設については、計画的に解体を進め、適切な教員住宅の管理に努めてまいります。

○田辺委員長

町立学校適正配置計画の見直しについてですが、かつては多くの学校の数が大幅に減少してきていると言うことで、非常に寂しい感じもするのですが、これも人口、生徒の減少というかたちの中では、やむを得ないと思います。

28年度いっぱいをもって、床潭小学校も閉校するという道は決まっている、残るは高知小中学校が課題として残っています。

これは、地域の事情などがあるんですけども、私、教育委員の考えとすれば、子どもがこれからどのように育って行くかべきか、ということをもっと重点に考えて行くべきだろうなと思っています。

学力の向上もさることながら、共同生活における社会性の気質といいたいまいしょうか、そういった部分を考えて行かなければ、ならないと思っておりますので、この辺は、地域とどんどん協議しながら、最良の道を判断して行かなければならないと思いたいまいすが、町長も地域の声を聴く機会もあろうかと思いたいまいすけれども、その辺で、共通の認識の中で、行ければ幸いたいまいすので、その点ご配慮をお願いたいまいしたいと思います。

○議長（町長）

その他、何かございたいまいせんか。

○濱委員

去年（平成27年度）の教育行政執行方針を読ませてもらったのですが、去年とどういう点が変わったのかという観点で見させてもらったのですが、今回は、去年と内容的に変わってなくて、取り上げられなかったんですけども、高等学校教育の支援というか、翔洋高校に対する支援ということで、今年度の高校入試の倍率が出ていたんですけども、なかなか厚岸町規模の町で、職業科と普通科をもつ学校が減ってきている現状を考えると、町としても積極的なバックアップが必要なのではないかと思いたいまいすよ。

今、定期券の助成を行っているんですが、なかなか生徒が思うように集まらないし、厚岸の子も釧路に通うという現状なので、もっと積極的に特徴ある職業科をもっている学校なので、もっと積極的にPRする方法を考えて行かなければならないと、強く思いたいまいまして、何とか町と教育委員会と一緒に、もっとバックアップをできる方法を探して行ければと思いたいまいす。

○議長（町長）

その他、ございたいまいせんか。

（意見なし）

それでは、お二人の方からお話、考え方がありましたので、私からその点に関しまして、お話をさせていただきたいと思いたいまいす。

まず、適正配置計画、閉校を含めてのお話が田辺委員長からお話がありました。残念なことに少子化を迎えまして、そういう状況にある現実でございたいまいす。

特に昨年生まれた子どもが58人あります。反対にお亡くなりになられた方が、125人という状況であります。すなわち社会減という時代がずっと続いておりまして、人口減少につながっているわけであります。今日現在、1万人を割りまして、9,995人という状況にあります。減少が続くわけであります。

これは、昭和35年の2万3千人をピークとして、減少が続くわけございたいまいまして、これは厚岸町のみならず、全国的な少子化問題として、ご承知のとおり国も、「まち・ひと・しごと創生」と言うことで、2060年には何とか、1億人をキープしたい、現在は1億2千万人いるわけありますが、そういう政策をもって講じようとしております。

そういう現況の中で、私はこの頃の保護者の方々の考え方も大きく変わったのでは

なかろうかと、そのように考えております。

というのは、かつて閉校しようとする学校があるとするならば、校舎はその学校の地域の拠点になっていたわけでありまして、運動会をするにいたしましても色々な行事を行うにしても、学校が中心となっていたという中で、閉校には厳しい抵抗があったわけでありまして。

しかしながら、厚静小学校にしても、上尾幌小中学校などにしても、児童生徒を中心とした閉校、また、学校教育のあり方を考えるようになってきた。と私は感じているわけでありまして、床潭小学校の閉校におきましても、教育委員会と地域の保護者の方々の相談の中で、そのような決定をいたしました。また、私も、そのようなことについては、教育委員会のご努力に敬意を表すると同時に、保護者の皆さん方も、将来の子どもさんのことを考えて、理解をいただいたものと考えているわけです。

特に私も、日本生命のアンケート調査を見てみましても、男子と女子生徒の違いは、ありますが、特に男子生徒の一番は「サッカー選手、野球選手になりたい。」それが一番です。女性は、「お菓子屋さんになりたい。」というアンケート調査が一位です。

そういうことからしても、小規模では、そういうテレビで、毎日見ているような野球、スポーツ、文化も全てですが、できない状態ということが、子どもたちも十分承知をしているのではなかろうかと、私も感じているわけで、できるだけ、地域を見つめた、根ざした、学校のあり方ということに、今後とも考えて行かなければならない。

特に閉校された学校には通学の足という問題がありますので、この点も十分に町行政の中で考えて行かなければならない大きな課題であろうと考えているわけでありまして。

また、翔洋高校であります、残念なことに定数割れであります。これから試験があるわけでありまして、お話を承りますところ町内の学生は36人希望しているようであります。良い面を考えますと、本州から1人の女性の希望があったということで、ございます。

女子寮ができたおかげで、そういう希望者もでてくる。本州のみならず町外の女子生徒の中にも寮生活をしたいという希望がでて、そういう結果になっているわけですが、定数割れをしていることは現実であります。

そういう意味において、これは、どうしても生徒数の半数が釧路に行ってしまうという状況の中で、保護者の認識はもちろんであります、願わくば地元には高校があるわけですので、このままで行ったら、残念ながら閉校しなければならない。

20人を割りますと、そういう（閉校）道教委のお話も出ていますので、濱委員が心配することも当然のことでもありますので、我々といたしましても色々な支援をいたしておりますが、やはり地元にある高校に対しましての保護者の理解、それから、学校側の努力も必要だと、そのように考えておりますので、この点厚岸町唯一の高校であります翔洋高校は、どうあるべきか共に考えて行かなければならない重大な問題であるとそのように認識をしている次第でございます。

（教育行政執行方針で）翔洋高校の記述は、どうなっていますか。

○教育委員会事務局（管理課長）

9頁の下段2行目から、10頁にかけて記載しています。

【教育行政執行方針（案）翔洋高等学校の記載】

2点目は、高等学校教育への支援についてであります。地元中学校卒業生の減少や進路志向の多様化に伴い地元中学校からの志願者が少なくなっておりますが、「厚岸翔洋高等学校」は、地元の高校であるとともに水産科を有する道東唯一の職業科高校であります。

本年度も「高校通学バス定期券購入費助成」を実施し、保護者負担の軽減と入学生確保のため支援を行うとともに、高校と連携しながら魅力ある学校となるよう様々な振興策や今後の学校のあり方について検討を進めてまいります。

○議長（町長）

これは、もちろんそうなんだけど、水産（科）が前面に出てしまう。書き方が職業高校であるということが。

○富澤教育長

普通科も、もちろんあって、水産科としては道東唯一であるということもあって、かなり広い地域からも人材を集めたいという意味も含めて。という言い方をしています。

ここで、具体的なことを述べられなかったんですけれども、「振興策、今後のあり方について検討したい。」という言い方をしているんですけれども、私自身も全道の教育長会議などでお話を聞くと、特に日本海側の留萌あたりの高校支援でいうと、お金の支援だけでは解決しない時代になってきているという言い方をしているんですよ。それは何かというと通学費全額補助をしても生徒が集まらないというふうな状況になってきています。

これは何かというと、高校の学力支援というものが、実際に無いと現実問題その学校を志願しないのではないかということ、状況がでていていると思います。

具体的には一間口の学校でいうと、例えば、理科の先生は定数からいうと1人になります。普通高校では考えにくい総合理科という科目になります。大学を受験するときにはどうかというと、「物理」「化学」という単独で行っていることを考えると、自分が努力しないと中々、大学進学ができないという状況が、それぞれの小さな高校の中で生まれて、多少不便でも大きな高校に行って、まずは、未知数である場合は特に、上の学校を目指す場合は、地元の高校へ行きづらいという状況があるのかなと。

その中で、最近出てきているのが高校生に対する学習補助を町として、しようとする動きが出てきているんですよ。高校だけでは中々、補習できない部分を町として、支援員を雇うような形で、高校生が学習する中で、補習していくような形でやって行く。全国的な有名な例をいうと隠岐の島では、進学率が上がったことによって、大阪方面からわざわざ島に高校生がやって来るといった状況が生まれてきています。

そういう状況を見るとお金だけじゃなく、色々な多方面での支援が必要なのかなと。

これから町長部局とお話をさせていただければと思っております。

例えば、調理師課程をもっている中では、三重県にあるんですけども、アンテナショップをもっている高校があります。これはどういう形かという、町内に辞めてしまった食堂を借りて、週に1度、あるいは週に2度営業をする。営業をする中で、店を営むノウハウ、例えばマーケティングなど店を営むには、仕入れや簿記なども必要になる。色んな総合的なことをして、店を経営していく。

(翔洋) 高校にも提案してみたいんです。例えば、そういうアンテナショップみたいなのはどうだろうか、やはりそうしたときに高校の教員だけでは、ほとんどが土曜日の活動になれば、それを指導する先生の勤務条件等からいうとなかなか、難しいのではないかと、という意見が出ています。

例えば、そこを全部、町側がそういう人材に対して、全額補助できるかどうかというのはありますけれども、是非、積極的に高校側も町側も今の調理師課程というのは、北海道の公立高校の中では、珍しい存在でありますから、その辺をもっとアピールする、できるような形で何か支援ができないだろうか、色んな形で考えて行けるのではないかと考えております。

○議長（町長）

今、アピールの問題が出ましたけれども、去年（平成27年度）の教育執行方針で、翔洋高校の外国研修は記述していますか。

今年、2人の方に姉妹都市のオーストラリア・クラレンスに行ってもらいます。そのことも年度が違うが、執行方針は多方面で読まれるので、今言ったアピール、魅力ある高校として。（教育執行方針に入れてみては。）

○教育長

そうですね。高校支援が良いか、姉妹都市の方で触れるのが良いか検討させて頂いて、入れて行きたいと思います。

○議長（町長）

その他、ございませんか。

(意見なし)

○議長（町長）

それでは、それぞれのご意見を承ったわけではありますが、教育行政執行方針（案）については、本日の意見を踏まえた内容も含めて、調整をさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(異議無し)

○議長（町長）

それをもって議会における教育行政執行方針を教育長が述べるということになりますので、よろしくお願い申し上げたいと存じます。

それでは、折角の機会でありますので、主たる教育行政執行方針について、議題として終わりましたので、総括的に「その他」ということで、皆さん方からのご意見があればと思いますので、田辺委員長からお願いします。

○田辺委員長

以前にも申しましたけども、若狭町長には、かねてから教育という部分には、熱心に配慮いただいていると理解していましたが、特に総合教育会議が設置されてから、より配慮いただいていると受け止めさせて頂いておりますし、改めて敬意を表したいと思います。

一年過ぎようとしており、新しい年度に入っていくわけですが、28年度の途中において、教育委員会の体制も新しい体制、実質的な体制に入っていく年というわけです。この新しい体制の中では、より教育の充実に向かっていくというのが、大切であると思っておりますし、更にこの総合教育会議という位置付けも、重要性を増していくのかなと思っております。その辺、改めてよろしくお願いしたいと思っております。総体的には、そのような考え方でおりますので、よろしくお願い申し上げます。

○濱委員

今年度から行われた、総合教育会議なんですけれども、初年度ということで、どういった感じで進むのわからない中で進んできて、今回3回目ということなんですけど、もっと、こういう会議を活かせるような形での会議が充実していけば良いのではと思います。

今回の会議は、とても良かった。町の教育行政執行方針をこういう場で、みんなで色々検討することができたということは、総合教育会議の中でも意義ある会議であったと思っております。

○平良木委員

第3回ということで、実質的な内容について、直接町長のお話が聞けるということで、大変有意義な会議であったと思っております。

また、今年度の執行方針の、ホームページや土曜授業、情報端末の適正な使用などについて、色々時代にあった、新しい内容が取り込まれていて、大変によろしいと思います。

○森脇委員

会議を重ねることによって、町長と教育委員会の意思疎通が図られて、全ての教育の活性化が図られるものと、とても期待しています。

執行方針を見ても、最優先は子どもなのかなと。子どもたちが将来生きていく町が、子どもたちだけではなく、誰にとっても未来がある様に期待しています。

特に翔洋高校の話は、とても有意義な話であるなと思って聞いていました。

○議長（町長）

3回目の今日の会議であります、確かに濱委員が言われるとおり、どういう総合教育会議になるのかなということは、国の方はいじめ問題から始まった総合教育会議を目指していたものという気がします。私は、それはそれとして厚岸町における総合教育会議がつけられたということは、これからの未来のかわいい子どもさん方、生涯教育も含めて、その議論ができる場ができたということは、大変良かったなと考えているわけです。

特に子どもは厚岸町を背負う将来の宝であります。そういう面におきましても、現場における教育のあり方というものをしっかりと行政の立場からも、見つめる場面ができたなとそのようにも考えるわけで、大変にうれしく思っているわけであります。

また、去年は7月、8月にかけて、釧路管内の中学2年生を対象にして、「今、住んでいる町が好きですか。」という、マスコミと教育委員会が合同で調査した結果が報道されたわけであります。

それを見ますと、なんと厚岸町の83.9%の子どもたちは、厚岸町は好きです。（という回答）これは、管内一です。

そういう内容を見ますと、大変私は、皆さん方が厚岸にいることを誇りに思っているんだなと、関心を強く持ったわけでありまして、町行政を推進する責任者として、大変うれしく、読まさせていただいたところでございます。

しかし、「将来ともに厚岸町に住みたいですか。」という問が問題です。住みたいという人は、わずか23%でございました。49%の方が「まだわからない。」当然、まだ、中学生ですからそういう数字が出てくると思っております。そしてまた、やはり「都会に行きたい。」という人も多いわけでありまして、そういう点を今後、行政が真剣に取り組んで行かなければならない。

先ほど少子化の問題も出ましたけれども、それだけ厚岸町は良い町だと、子どもたちが思っているのに、厚岸に残るかといえば、反比例な数字が出ているということを見ると、行政の責任も痛感しているところでありまして、やはり魅力ある厚岸町をつくって行かなければならない。それが、私の責務であるという感じもいたしているところでありまして、この3月にできる「総合戦略」並びに「人口ビジョン」を含めて厚岸町をつくって参りたいと思っておりますので、教育行政のみならず、色々な意味における皆さん方の忌憚のないご指導、ご鞭撻をよろしくお願いを申し上げる次第であります。私からは以上であります。

その他、事務局から何かありますか。

○事務局 特にありません。

○議長（町長）

それでは、本日の総合教育会議は、これで終了してよろしいですか。

（一同から「はい」の声）

○議長（町長）

以上をもって終了させていただきます。

誠にご苦勞様でした。ありがとうございました。